

島前合宿

島根県隠岐諸島の三つの島、海士町、西ノ島、知夫島へ行きました。この三つの島を総称して『島前』と言います。私がこの合宿に参加したきっかけは、友人に誘われ、説明会に行ってみたところ、私が興味を持っている『まちづくり』について深く学ぶことができそうだな、と思ったのと、この合宿を運営しているのが同じサークルの先輩だったからです。私は現代福祉学部にて在籍しており、まちづくりや地域福祉を学んでいます。この合宿に参加すれば、今学んでいることがより深く、現実的に学べると思いました。

まず一日目に島に着いた時、観光に力を入れているなと感じました。船を降りると観光案内所があり、島の観光スポットのパンフレットがたくさんありました。他の観光客もたくさんいました。宿に着くとその宿は若者宿といって、島が私たちのような島に来た学生に格安で宿泊ができる合宿所のようなところでした。若者の受け入れ態勢もしっかりしているな、と感じました。一日目は二日目に行く中学校での出前授業の事前準備をしました。夏休み前にも学校で事前学習を何回かしましたが、その最終仕上げです。中学生の出前授業の内容が、今までの自分の生き方を伝え、大学生とは何かを教える、というものだったので、ライフストーリーチャートという自分の今までの人生の浮き沈みをグラフにしたものを書きました。いざ書いてみると、自分がどんなことで悩み、どんなことを重要視して生きてきたのかがよくわかりました。グラフを作った後、時間もあつたし天気良かったので海に行きました。西ノ島の海は、底が見えるほどのきれいな海で、魚も泳いでいました。波が少なく、泳ぎやすかったです。海がない長野県出身の私にとって、とても新鮮で思い出に残る体験となりました。

二日目は、まず中学校に出前授業に行きました。一日目に用意したグラフを使い、自分の今までの人生について中学生と話をしました。島には高校までしかなく、大学がありません。なので島の子供達は大学がどんなところなのか、どんなことを学ぶのかを知りません。私はまだ大学に入学して半年しか経っていないので、大学に入

るまでの経緯について主に話しました。島の中学生は、私が想像していた以上に自分の将来についてしっかり考えていて、自分のやりたいことがもう決まっているという子がほとんどでした。私自身が中学生だった頃のことを思い返すと、自分の将来についてぼんやりとしか考えられず、何をやりたいのかもわからなく悩んでいました。なので中学生の話を聞いて、驚いたとともに尊敬しました。そのあと中学生が校舎の案内をしてくれました。西ノ島には一つしか学校がなく、中学生と小学生が同じ校舎で学びます。大まかな校舎は分かれています、一緒に体育館で遊んだりしていました。学年関係なく遊んでいる姿はとても楽しそうでした。中学生と小学生の壁を超えて繋がれる環境は島ならではの、素敵だなと思いました。午後は島で畜産をしている道前さんという方のお話を聞きに行きました。まずは道前さんの育てている牛を見に牛舎へ行きました。島の特産物である隠岐牛として出荷するための牛で、とても立派でした。これらの牛は、島の大部分を使って放牧をしています。放牧をすることによって、牛のストレスをなくし、身の引き締まった牛になるんだそうです。牛を見た後、摩天崖（まてんがい）という島の観光スポットに案内してもらいました。摩天崖は海が一望でき、放牧されている馬を見ることができます。その日はあいにく天気がぐずついでおり、曇っていたのですが海を眺めることができよかったです。そして夜は道前さんがご飯をご馳走してくださいました。道前さんの家でバーベキューをしました。隠岐牛や新鮮なサザエ、魚を振舞ってくださいました。島にはたくさんの名産物があり、それを私たちにたくさん提供してくれる島の人々の優しさを感じました。道前さんをはじめ、私たちに島の食べ物をくれたり、車に乗せてくれたりする方が多くて、あたたかい人たちばかりなんだなと強く感じました。

三日目は、海士町で行われた『キンニャモニャ祭り』に参加しました。内航船で海士町へ移動し、到着するともう既に多くの人がいきました。二日目の中学生や、道前さんもいました。祭りが始まる前に少し時間があつたので海士の海に行きました。海士の海も西ノ島の海と同様、底が見えるほどの綺麗な海でした。足だけでしたが海

を楽しみました。そしてお祭りが始まり、しばらく島の人たちが踊っているのを見て、私たちも急遽参加することになりました。島の方たちの踊っている姿を見ながら、見よう見まねで踊ってみました。踊りはうまく踊れませんでしたがとても楽しかったです。そのあとは花火をみました。自分の想像以上に素晴らしい花火でした。クオリティはかなり高く、海の上で上がる花火があまりにも綺麗で感動しました。島に帰ってから、昼間に行った摩天崖に星を見に行きました。高いところから見る星は、鮮明でとても綺麗でした。はっきりと見えるし、流れ星が常に流れていてこんな景色初めてみました。感動しました。島ならではの体験、という感じでした。

そして四日目は観光の日でした。私は知夫島に行きました。その日は雨がひどかったのですが、島の人が車を貸してくださったのでなんとか移動することができました。お昼ご飯に島で採れたサザエを使ったサザエ丼を食べました。とても美味しかったです。新鮮な味がしました。東京でも食べれたらいいなあと思いました。その日の夜は全員で打ち上げをして、先輩にたくさん勉強の話を聞けました。島前合宿は1、2年せいで行くので、先輩と話せるいい機会でもあります。先輩の話を今後の参考にしたいと思います。

五日目は島の地域振興課へ行って役員の方と話をしに行きました。そこで話を聞いて、質問をするという時間があると前もって言われていたので何かに重点を置いて質問しようと決めました。私は少子高齢化社会、人口減少ということに興味がありゼミの活動でも調べている途中だったのでその二点を中心に質問をしました。私が質問したことは、『島ならではの少子高齢化による悪影響は何か』ということと、『少子高齢化を解決するために行っていることは何か』ということを質問しました。前者の回答は、『老人ホーム、特別養護施設の不足』でした。西ノ島には今現在、老人ホームが一つ、特別養護施設が一つの合計二つしかありません。施設にはベッドの数が限られていますから、入れない人が出てきてしまいます。また、介護関係の就職率も減少しており、人手不足が深刻化しています。介護の仕事は大変でキツイというイメージからか、働きたいと思う人が少ないんだそうです。一人暮らしの高齢者が増え、施設に入りたい。

しかし施設のベッド数が足りないため入所できない。また、働く人もいない。離職率ばかりが増える。このようなサイクルで高齢化はますます進んでいるのに、介護者がいない、という事態が深刻化しているのです。私はこの話を聞いて、介護職に就く人を増やすために、介護職手当を出すなどすればいいのではないかと考えました。そうすれば施設を増やしたり、ベット数を増やすこともできるのではないかと思います。後者の質問の回答は、『Uターン、Iターンへの取り組み』だそうです。とにかく若者が欲しいわけですから、島出身の若者を再び島に戻したり、観光に来た若者に西ノ島の良さを知ってもらい移住してもらおう、という取り組みを行っています。島に移住してくれる人に島の方から仕事を与えたり、住まいを与えたりして島に移住しやすい体制を整備しているそうです。このような取り組みをほかの地域でもどんどん取り入れたらいいなと思いました。

最終的に船の欠航で一日延泊でしたが、たくさんのことを学ぶことができ、行く時よりも自分の考え方が変わったなと思います。これからもこの体験を生かして勉強に励みたいと思います。

